

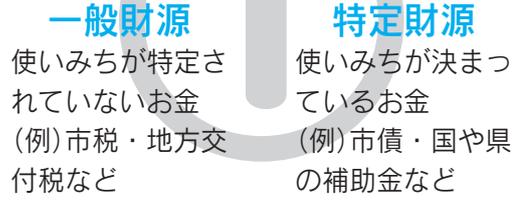
# 財布の中身

## その三

今年度から、市の財政状況をお知らせしてきた「財布の中身」。二回目の今回は、市の普通会計決算をベースに、中核市になった平成15年度と同20年度の速報値を比較します。市税などの使いみちの変化について、できるだけ分かりやすくお知らせします。

財政課・TEL224-5618

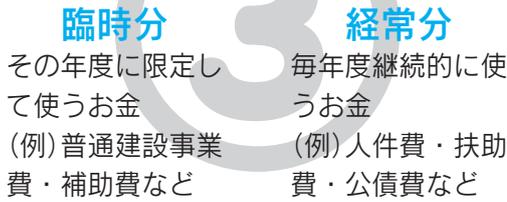
### 歳入(市の収入)



平成15年度と同20年度の歳出を、歳入である一般財源・特定財源に振り分けると…… (億円)

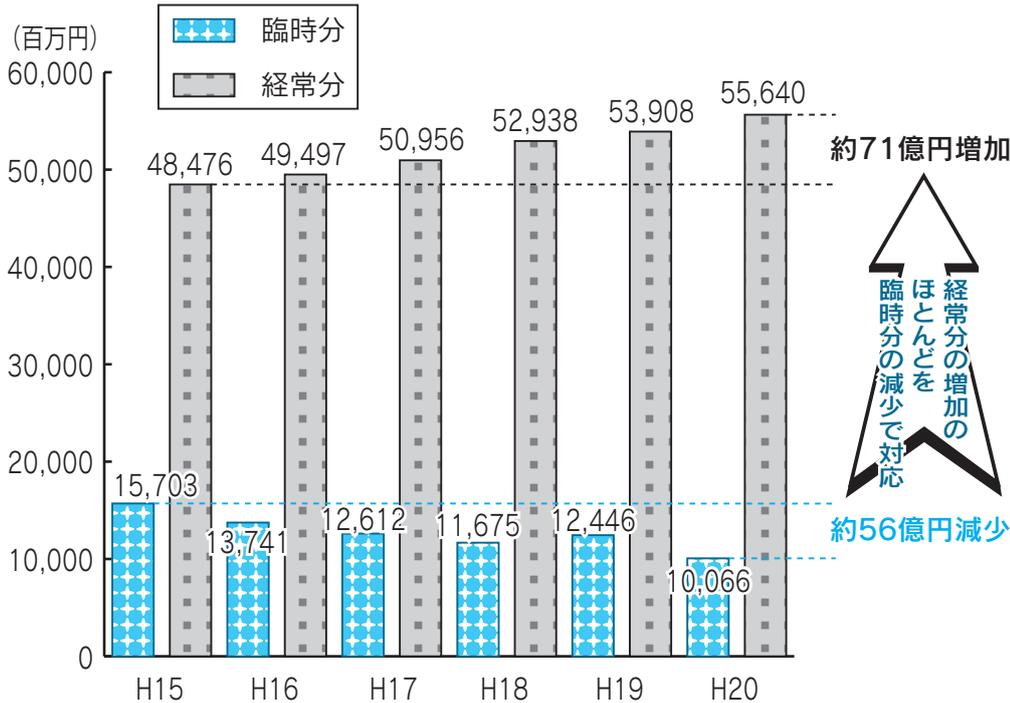
	H15	H20	増減
歳出合計	841	957	+116
うち一般財源	642	657	+15
うち特定財源	199	300	+101

### 一般財源の使いみち



今回は一般財源の使いみちを中心に市の財政状況をお知らせします

### 一般財源の使いみちを臨時分と経常分に分けると……



### 一般財源を使いみちから分類

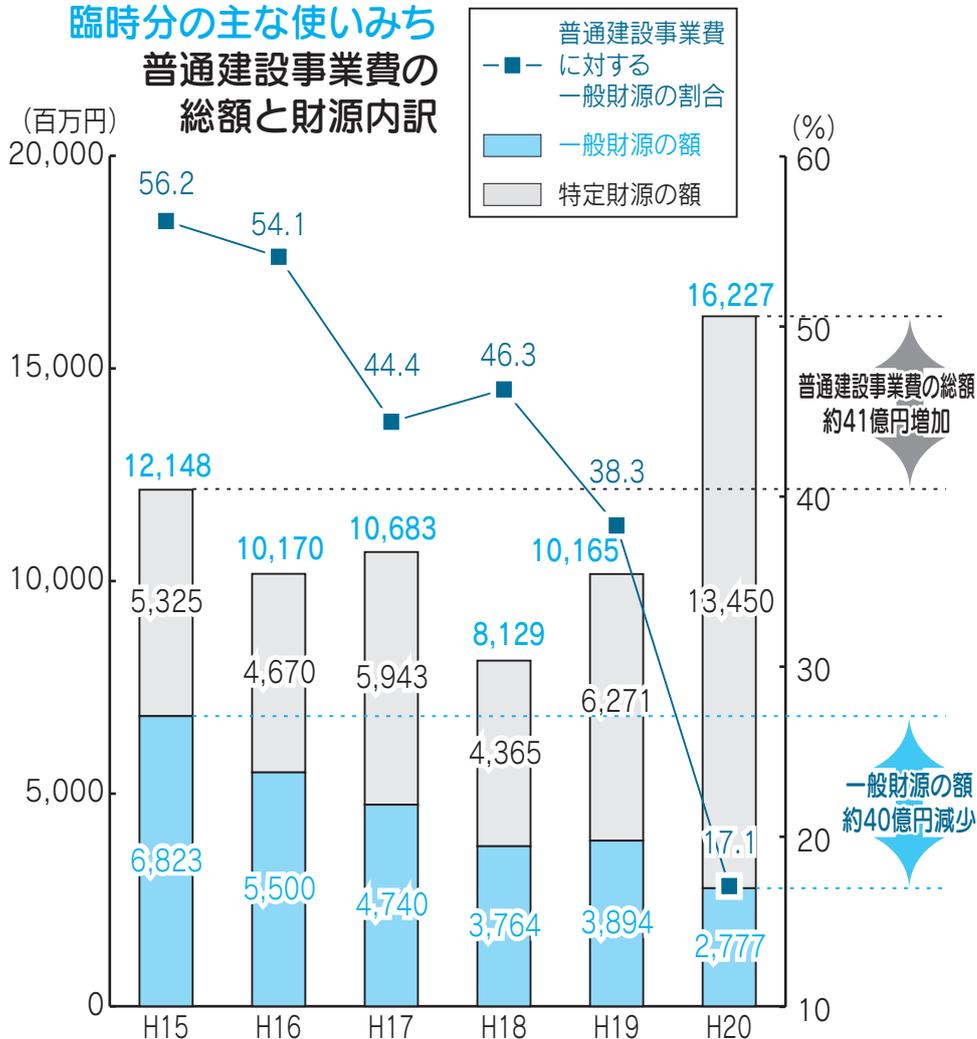
市税や地方交付税など、財源の使われ方が特定されていない収入を「一般財源」といいます。一方、国・県からの補助金や、国・銀行などから借入する市債など、特定の事業を行うための収入を「特定財源」といいます。一般財源は、例えるならサラリーマンの給料。安定した財源で、年度ごとに収入が大きく変化することとは、まずありません。

一般財源は、その使いみちから臨時分と経常分の二つに分類できます。例えると、臨時分は、車の購入費のようにその時だけ発生する費用に対して使うお金。経常分は、生活費や光熱水費のように毎月発生する費用に対して使うお金のことです。

### 生活費が増えています

それでは、平成15年度と同20年度の支出を比較してみましよう。上の表を見ると支出の総額は、同15年度が約八百四十一億円、同20年度が約

## 臨時分の主な使いみち 普通建設事業費の 総額と財源内訳



## 左の棒グラフの解説

一般財源のうち臨時分  
↓  
主に普通建設事業費  
に使われている  
↓  
道路や施設を作ったり  
直したりするのに必要な、  
大切な経費の1つ  
↓  
でも、  
一般財源は  
増加する経常分  
に使われるため、  
臨時分は年々減少  
↓  
普通建設事業費の  
歳出額全体に対する、  
一般財源の割合が減少  
↓  
足りないお金は特定財源  
↓  
借りたり(市債)  
もらったり(補助金)  
しているのです

九百五十七億円で、約百十六億円増  
加しました。そのうち一般財源で賄  
われた額は、五年間で約十五億円増  
加しています。残りの約百一億円は、  
特定財源で賄われています。

このうち一般財源で賄われた額を  
臨時分と経常分に分けたのが、右ペ  
ージの棒グラフです。同15年度は臨  
時分が約百五十七億円、経常分が約  
四百八十五億円でした。同20年度は  
臨時分が約百一億円、経常分が約  
五百五十六億円です。臨時分は、約  
五十六億円の減少ですが、経常分は  
約七十一億円増加しています。

このことから、経常分の増加のほ  
とんどは、臨時分の減少で賄われた  
ことが分かります。経常分の増加は、  
生活費や光熱水費の増加。つまり、  
生活に必要な最低限の経費が増え、  
車の購入費などにお金を使う余裕が  
なくなっていることを意味します。

### もう、限界です

上の棒グラフを見ると、普通建設  
事業費に使われた一般財源は、平成  
15年度から同20年度の間に約四十億  
円が減少。一方、普通建設事業費の  
総額は、約百二十一億円から約  
百六十二億円へと、約四十一億円も  
増加しています。歳出の総額と一般  
財源の差額は、特定財源で賄います。  
つまり、同15年度と比べて同20年度

は、約八十一億円も、借りたり(市  
債)、もらったり(補助金)するお金  
が増えたことになりました。

同20年度における普通建設事業費  
の全体に対する一般財源の割合は、  
17・1パーセント。これは、事業の  
八割以上を市債や補助金などに頼っ  
ていることになりました。もうこれ以  
上、特定財源に依存することはでき  
ません。

### より健全な財政運営のために

主な一般財源となる市税は、景気  
の低迷などの影響で当面収入増が見  
込めません。一般財源の総額を増や  
すことは、難しいのが現状です。

一般財源の使いみちである経常分  
は、人件費・扶助費・公債費に多く  
使われています。このうち扶助費・  
公債費は、今後も増える見込みであ  
ることから、経常分は増加すると想  
定されます。一方、臨時分の主な使  
いみちである普通建設事業費は、道  
路や公共施設の整備を行うため、一  
般財源の確保は引き続き必要です。

このようなことから、今後も市の  
財政運営は大変厳しいものになると  
思われます。市では、コストの削減  
と収入の確保の両面で、持続可能な  
財政構造を確立し、適正かつ有効に  
一般財源を使うよう努めていかなけ  
ればなりません。